

ボリス・ベルキン (指揮専攻特別招聘教授)

特別公開マスタークラス

2024.4.22 Mon.

17:30~

東京音楽大学

中目黒キャンパス TCMホール

聴講無料・入場自由(申込不要)



ナビゲーター/広上淳一

通訳/柿沼麗子

受講者/指揮専攻学生

協力/ ヴァイオリンソロ:

会田莉凡(指揮専攻特別アドヴァイザー)

大野真依子(学部2年)

中嶋美月(学部2年)

渡邊紗蘭(学部2年)

管弦楽:指揮専攻特別オーケストラ

課題曲: ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調      ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調

Profile

6歳よりヴァイオリンを始め、7歳でキリル・コンドラシンの共演でデビューを果たした。その後モスクワ音楽院中央音楽学校に入学し、フェリックス・アンドリエフスキー氏に師事。在学中から国内の主要オーケストラとソヴィエト連邦各地で演奏活動を行なう。1973年、ソヴィエト連邦ヴァイオリンコンクールで優勝。1974年、西欧に移住した後、世界的な演奏活動を展開。ベルリン・フィルをはじめ、ボストン響、イスラエル・フィル、ロスアンジェルス・フィル、フィラデルフィア管、ピッツバーグ響、モントリオール響、バイエルン放送響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管や、英国の数多くの楽団と共演を重ねている。

TV番組での紹介も多く、シベリウスの伝記映画では、ヴァイオリン協奏曲をウラディーミル・アシュケナージ指揮/スウェーデン放送響と共演。

これまでにレナード・バーンスタイン指揮/ニューヨーク・フィル (チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」)、フランス国立管 (ラヴェル「ツィガーヌ」)、ベルナルド・ハイティンク指揮/ロイヤル・コンセルトヘボウ管 (モーツァルト「ヴァイオリン協奏曲第1番」、パガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第1番」) と共演。

さらに共演した指揮者には、ユーリ・アーノロヴィチ、ロベルト・ベンツィ、パーヴォ・ベルグルンド、チョン・ミンファン、クリストフ・フォン・ドホナーニ、シャルル・デュトワ、ウラディーミル・フェドセーエフ、ジャンルイジ・ジェルメッティ、ギュンター・ヘルビヒ、広上淳一、エーリヒ・ラインスドルフ、ロリン・マゼール、エドゥアルド・マータ、ズービン・メータ、リカルド・ムーティ、小澤征爾、サイモン・ラトル、クルト・ザンデルリング、ユーリ・シモノフ、ユーリ・テミルカーノフ、クラウス・テンシュテット、フランツ・ウェルザー＝メスト等が挙げられる。

録音も多く、デッカ (Decca) レーベルには評論家から絶賛されているパガニーニ「ヴァイオリン協奏曲第1番」(メータ指揮/イスラエル・フィル)をはじめ、チャイコフスキーとシベリウスの協奏曲をアシュケナージ指揮/フィルハーモニア管と、プロコフィエフの2つの協奏曲をコンドラシン指揮/ロンドン響、ブラームスの協奏曲をイヴァン・フィッシャー指揮/ロンドン響、R.シュトラウスの協奏曲をアシュケナージ指揮/ベルリン放送響と録音している。またデンオン (Denon) にはプロコフィエフの協奏曲をマイケル・スターン指揮/チュールヒ・トーンハレ管と、ブルッフ、シベリウス、ショスタコーヴィチ、グラスノフを広上淳一指揮/ロイヤル・フィルと、チャイコフスキーをスターン指揮/ロンドン・フィルと、モーツァルト「ヴァイオリン協奏曲イ長調 K.219」と「協奏交響曲」をザルツブルク・カメラータ・ソリストと録音。さらにミッシェル・ダルベルトとブラームスのソナタがある。

1997年には、アイザック・スターンの招きを受け、宮崎国際音楽祭で共演を果たした。またユーリ・バシメット、ミッシェル・マイスキー等と室内楽にも熱意を持って取り組んでいる。

近年では、テミルカーノフ指揮/サンクトペテルブルク・フィルとのヨーロッパ・ツアーをはじめ、広上淳一とアシュケナージ指揮/NHK響、ジェルメッティ指揮/シドニー響のオーストラリア・ツアー、レナード・スラットキン指揮/ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、デュトワ指揮/ドレスデン・シュターツカペレ等と共演。

1987年より、毎年夏にイタリアのシエナにあるキジアーナ音楽院でマスタークラスを行なっている。

使用楽器はボローニャのロベルト・レガツィ作。